設楽発掘通信

No.68
令和４年
１月

名古屋市内で発掘成果を発表しました

愛知県埋蔵文化財センターでは、毎年、「考古学セミナー　あいちの考古学」を開催しています。この会は、年に一度、埋蔵文化財や考古学に関わる、行政・大学・民間の各機関が集まり、成果を発表する機会となっており、今年は十二月十一日（土）・十二日（日）に、名古屋市博物館で実施されました。

愛知県埋蔵文化財センターの発表としては、今年度の設楽ダム関連調査成果の途中経過をパネルで報告いたしました。設楽町までなかなかお越し頂けない方々に、発掘調査成果をお伝えするとても良い機会となり、両日合わせて、のべ二百名以上の方々にご来場頂きました。多くの方々が、遺跡の内容や成果に大変な興味を示され、改めて我々も設楽町の埋蔵文化財の大切さを感じた機会となりました。

（川添和暁）

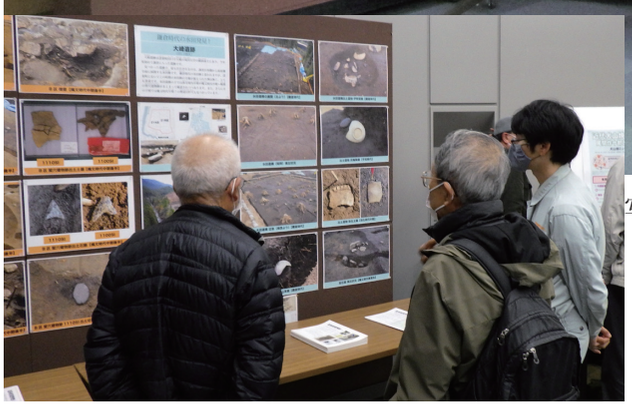

写真１　令和３年度考古学セミナー「あいちの考古学 2021」
愛知県埋蔵文化財センター　パネル展示発表の様子

※パネル展示をもとに、職員により発掘調査の概要をご説明いたしました。

大崎遺跡発掘調査

大崎遺跡A区は水田跡の調査がほぼ完了し、竪穴建物跡がまとまって確認されていた南東部の調査を開始しました。

竪穴建物跡は全部で9棟確認しており、現在は3棟の竪穴建物跡の調査を進めています。①は縄文時代晩期ごろと思われる竪穴建物跡です（写真2）。掘削を進めたところ埋土から石匙が出土しました。その他には土器片と剥片が出土しています。床面の精査を行なったところ、地床炉と柱穴を確認しました。②は弥生時代中期後半ごろの竪穴建物跡です。この竪穴建物跡は小判型という弥生時代中期ごろに見られる形であることがわかっています（写真3）。また、建物の周りには周堤があったと思われる痕跡が見つかっています。③は弥生時代前期後半ごろの竪穴建物跡です。土層確認用の溝を設定し掘削したところ、他の竪穴建物跡より深く掘り込まれていることがわかっています。また、竪穴建物跡内には遺物とともに、大きめの礫がまとまって埋められている様子が確認できました（写真4）。

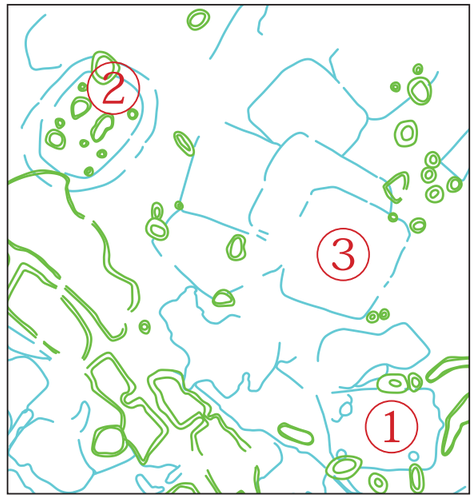

図1　A区竪穴建物周辺を拡大したもの

A区の南東部では遺物は広い範囲で出土し、時期も縄文時代後期から中世まで様々です。特に縄文時代後期中葉に見られる有溝石錘（写真5）や縄文時代のものと思われる石核、剥片などの石器の出土が目立ちます。もしかすると水田遺構の下に縄文時代の遺構が見つかるかもしれません。

（社本有弥）

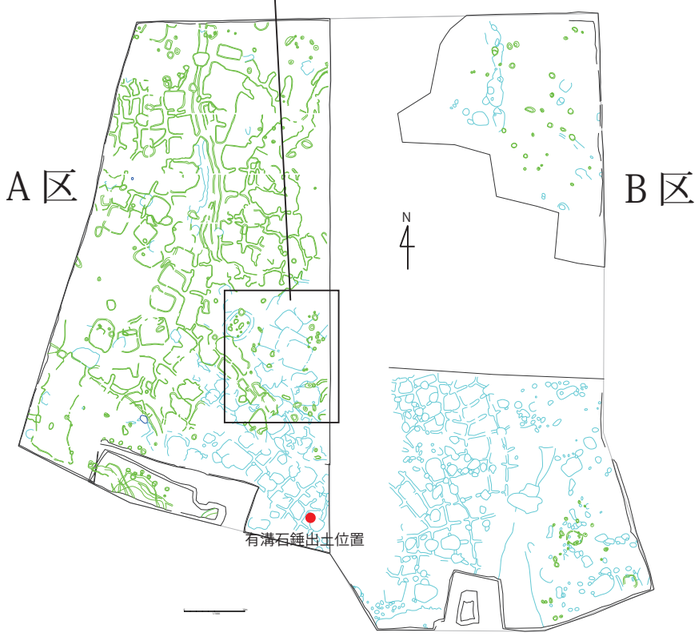

図2　大崎遺跡全体図 (1/1000)

写真2　竪穴建物跡の床面検出状況 (図1①)

写真4　竪穴建物内の礫出土状況 (図1③)

写真3　竪穴建物跡検出状況 (図1②)

写真5　有溝石錘出土状況 (図2赤点)

写真6　落とし穴断面図 (破線の中が落とし穴)

写真7　大崎遺跡B区の作業の様子（南東隅から）

B区では、現在北側と南側の2箇所で調査が進んでいます。

北側では古い山の斜面が検出されました。傾斜もきつく、人が住むのには適さない土地で、遺物もほとんど出土しません。しかしここでは、袋状と言われる上部が狭く下部が広い形の土坑（＝人の掘った穴）が検出されました。山の斜面にあることから落とし穴の一種と思われ、イノシシなどを捕る目的だったと考えられます。

南側の東部では、縄文時代の遺物が少数出土するものの、人の住んだ痕跡がほとんど無いことが判明しました。それに対しA区に近い西側では、水田遺構が見つかっており、A区で見つかった水田遺構から一連のものであると想定しています。また、縄文時代の土器・石器が集中して出土する箇所もあり、水田遺構の下から竪穴建物跡などが今後見つかる可能性があります。

（河嶋優輝）

設楽町における縄文時代の竪穴建物跡の変遷

竪穴建物跡は時代によって様々な形や付属施設を伴っており、土器や石器とともに遺跡の時期を考察する重要な要素の一つとなります。写真８は平成30年度の滝瀬遺跡の発掘調査で確認された竪穴建物跡です。この竪穴建物跡は形は円形に近く、明確な柱穴や炉跡などの付属施設は確認されませんでした。初期段階では炉を竪穴内部におかず、外に築く屋外炉が一般的と言われています。滝瀬遺跡では同じような竪穴建物跡が11棟見つかり、愛知県内でもっとも古く、全国的にも珍しい縄文時代早期の集落跡と評価されています。正確な年代は他の竪穴から出土した土器片や炭化物の年代から、約９千年前の縄文時代早期前半の遺構だと判明しました。

写真９は令和２年度の胡桃窪遺跡の調査で確認された竪穴建物跡の写真です。形は楕円形に近く、中央に炭化物を含む炉跡と思われる遺構が見つかりました。竪穴内で確認された縄文土器の特徴より、縄文時代前期後半の竪穴建物跡と推測されます。

写真10は今年度に下延坂遺跡で確認された竪穴建物跡の写真です。形は円形か、角が丸くなった隅丸方形という形で、中央に石囲炉を有し、その炉を囲うように主柱となる柱穴が４本あるなど、多くの付属施設を伴っております。これらの特徴は縄文時代中期からよく見られる竪穴建物の特徴に当てはまります。設楽地域では他にも大畑遺跡や笹平遺跡などでも確認されております。

写真８　滝瀬遺跡の竪穴建物跡

写真９　胡桃窪遺跡の竪穴建物跡
（中央に地床炉がある）

設楽地域では他にも竪穴建物に周溝を伴う例（大畑遺跡）や、建物内に写真11のような土器埋設遺構（埋甕）を伴う例（西地・東地遺跡）など、多くの縄文時代の竪穴建物跡が見つかっており、これらは縄文時代の住居址を研究する上で重要な資料となります。

（渡邉　峻）

写真 10　下延坂遺跡の竪穴建物跡
（中央の石囲炉と４基の柱穴の完掘状況）

写真 11　西地・東地遺跡の竪穴建物跡
（埋甕：赤丸の部分）

設楽発掘通信

No.68　令和４年１月号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方802の24
電話　（0567）67-4161【管理課】4163【調査課】
ホームページ　http://www.maibun.com
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun
印刷・協力　株式会社イビソク